



2014(平成26)年12月号

## 御正忌報恩講のご案内

阿弥陀さまの大慈悲をあきらかにし

て、私たちに浄土往生の道を示して下

さったご開山親鸞聖人の九十年のご苦

勞とご恩徳を讃え、仏恩報謝の心をよ

せあつて、大切につとめさせていただ

く報恩講。

浄土真宗では、もつとも大事なご法

要です。お誘いあわせお参り下さい。

一月十四日（水）昼一時半 夜七時

十五日（木）昼一時半 夜七時

夜十一時

十六日（金）昼一時半

※ 十六日は親鸞聖人のご命日です。

特に大切に勤めます。

## 報恩講お斎のご案内

次の通り、お斎のご案内を申し上げます。

【十四日】

「昼」

豊原・平野・浅田・沢江

上ゲ・殿村・上東方

下東方・小島・町外

【十五日】

「昼」

向山・久原・土手

中村・大竹・市・湯免

下中小野・辻並

「夜」

野波瀬東側

（一～四班）

室生

「夜」

野波瀬西側

（五～十三班）

※ 十六日は、お斎はありません。

※ 都合の悪い方は、指定以外の日にお参りされても構いません。

## お斎受付のお願い

野波瀬の世話人の方は、毎年のように担当

区域の、お斎受付のお世話をお願いしま

2015（平成27）年

## 年回忌表

昭和90年に当たります。

一周忌 2014（平成26）年往生  
三回忌 2013（平成25）年往生  
七回忌 2009（平成21）年往生  
十三回忌 2003（平成15）年往生

十七回忌 1999（平成11）年往生  
二十五回忌 1991（平成3）年往生  
三十三回忌 1983（昭和58）年往生  
五十回忌 1966（昭和41）年往生  
百回忌 1916（大正5）年往生

# 御正忌報恩講とは



親鸞聖人が亡くなられた日をご縁として開かれる法要です。親鸞聖人は七五〇

年も前に亡くなられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを生きる力、そして「よりどころ」とした、たくさんの念仏者を生み育ててきました。私たちの先輩方は、この御正忌という法要を一番大切にされ、人生における本当に尊いことを聴聞されたのです。門徒みんながこの御正忌にお参りすることが、慣わしでもありました。十五日には、夜の座の後に午後十一時の通夜法座もあります。(平成六年までは、十六日朝五時のお朝事まで、徹夜でお番をするお通夜を、極楽寺でも勤めていました。) 毎年御命日には、記念写真を撮っています。ぜひ、お参り下さい。



2014年の16日御命日にお参りされた皆さん

お寺のお世話をして下さい、総代・世話人の皆さんです。よろしくお願いします。

総代長	木村慎治さん(野波瀬)		
副総代長	山中重良さん(豊原)	総代	宮崎忠彦さん(野波瀬)
総代	藤田平二さん(仙崎)	総代	磯 昭正さん(沢江)
会計	松野行利さん(野波瀬)	監査	野村昭一さん(上東方)
野波瀬西側	斉藤達男さん	市・湯免	吉見周平さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	竹林啓助さん
	宮崎忠彦さん	久原	藤村勇次さん
	青海隆司さん	向山	木村重彦さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村一夫さん
	岩本 勉さん	下東方・小島	小林 昭さん
野波瀬東側	藤永拓之さん	豊原	山中博道さん
	田村成治朗さん		重岡幸作さん
	石川義文さん		宮本 智さん
	江本富夫さん		坪野実人さん
	岩本国久さん	平野	山中洋介さん
辻並・中小野	松並唯夫さん	浅田・沢江・上ゲ・殿村	大田忠男さん



## いよいよ『花燃ゆ』始まります！



いよいよ、吉田松陰の妹・文を主人公としたNHK大

河ドラマ『花燃ゆ』が、1月4日よりスタートします。

文の姉・寿子とその夫・楢取素彦（寿子没後、主人公の文と再婚）夫妻とご縁のある極楽寺は、様々な方の来訪や取材があり、住職は長門市企画展の実行委員会のお手伝いと、大忙しの一年になりました。

皆さん、ぜひご覧下さいね。極楽寺では、今まで裏番組の『世界の果てまでイッテQ』を見ていたのですが、一年間「イッテQ」は禁止とし、日曜日夜8時は『花燃ゆ』を見ることを子どもたちにも通達しております。

さて、極楽寺のある長門市三隅は、楢取夫妻と縁の深い人々がたくさんおられます。「シベリアシリーズで有名な画家の香月泰男」「長州藩の財政改革を果たし維新の礎を築いた村田清風」そして、「明治・大正・昭和期に山口県初の女医として医療活動や社会貢献活動に尽力された中原篷」の三人を、「三隅三賢人」と顕彰しているのですが、中原篷の父・復亮は楢取の群馬時代の部下でした。篷自身も、群馬で幼

少から教育を受けています。また村田清風は、楢取素彦と大変親しい間柄でした。当時藩の重鎮であった清風は若き素彦に期待し、江戸留学にあたっては餞別を送り「あの先生のもとで学べ、あの本を読め」といった手紙を書いています。清風の没後、素彦は吉田松陰から清風の伝記を書くように薦められました。素彦の多忙と資料不足により、果たすことはできませんでしたが、松陰は素彦に対し「お前は、清風先生の伝記を書く資格がある。いや、お前が書くべきだ。」と語っていたのでしよう。

その後、幕府恭順派が長州藩の政権を握った時、倒幕派の素彦は牢に入れられますが、その際一緒だったのは、村田清風の息子・大津唯雪でした。彼は、寿子亡き後、素彦に文との再婚を薦めています。

そして、先日発見され、発刊された素彦の伝記を書いたのは、清風の孫・村田峰次郎でした。つまり素彦は、村田家と三代にわたり親しくしていたのです。しかし、清風の伝記を書くこととして断念した素彦は、まさか清風の孫に自分の伝記を書いてもらうとは思ってもいなかったことでしょう。

そして、忘れてはならないのは、三隅浅田出身の周布政之助です。(ドラマでは、石丸幹二さんが演じられます。) 彼は、素彦の同志でした。政之助は、村田清風の流れを汲む改革派(倒幕派)の政治家であり、木戸孝允(桂小五郎)の親友でもありました。彼が藩政の中心の座に就いた時、吉田松陰は「同志の藩政府ができた。近代一代の快挙なり。」と喜んでいます。

萩博物館の道迫研究員によると、彼は「スーパー中間管理職」なのだそうです。野党の保守派(幕府恭順派)からは叩かれ、同志である改革派でも元氣な吉田松陰や高杉晋作からは「お前の政治はぬるい」と叩かれる。しかし、晋作らの尻拭いはきちんとするし、長州ファイブをロンドンに送るなど先見の明も持ちながらも、手柄はすべて彼らのものにするといった、中間管理職の鏡のような人だったと言われていました。(周布政之助は酒癖の悪さで有名ですが、それも中間管理職のストレスからなのかも。今の時代に通じるような、切ない話です。)

ちなみに、当時の藩主・毛利敬親は、「そうせい公」とあだ名さ



清風記念館を訪れた、周布政之助役の石丸幹二さん

れていました。長州藩では、改革派と保守派の政権交代が頻繁におこなわれていましたが、どちらが政権をとっても、提言にはすべて「そうせい」と任せていたからだそうです。当時は、常に先頭に立ち、国政にも積極的にかかわるような、強いリーダーが名君とよばれていたそうですから、「そうせい公」というあだ名には、多分の嘲りが込められていたのではないのでしょうか。

しかし、考えてみて下さい。人を信頼するのと、疑うのと、どちらがしんどいことでしょうか。任せること、成長を待つことは、本当に大変です。自分でやるほうが、どれだけ楽か。でも、「お前らはバカなんだから、オレの言うことを聞いていればいい」といった態度では、上司の顔色ばかりを伺うような、思考停止した人しか育ちません。責任はお前、手柄はオレという態度も、現場のやる気を削いでいきます。やはり、人間がパフォーマンスを最大に発揮できる環境とは、「責任はオレがとるから、思い切ってやれ」と背中を押された時でしょう。(これは、無責任な態度とはまったく違います。見守ることと無関心も違うことです。)

そう考えると、「そうせい公」毛利敬親がトップにいて、「スーパー中間管理職」の周布政之助がいた長州藩だからこそ、あれだけの人材が育っていったのではないのでしょうか。

それは、「私が必ず受け止めるから、あなたの人生を、精一杯生き抜いて欲しい」という阿弥陀如来の願いとも通じるところがあるように思えます。受け止めてくれる人がいる。信頼してくれる人がいる。それは人間が生きる上でとても幸せなことですし、一番成長できる環境であるはずですよ。せっかく、その環境を用意されているのですから、結果を恐れず、阿弥陀様から教えられた尊いことを、大切に生きていきたいものです。

先日、山口県知事さんとお会いする機会があり、この話をさせていただきました。「山口にはこんな先達せんたつがおられ、こんな伝統でんとうがあるんですよ。」と。

でも、ハッと気づいたことがあったのです。偉えらそうにこんな話をしているながら、私は子どもたちに対してどんな態度たいどをしているのだろうか。信じているだろうか、成長を待っているだろうか、見守っているだろうか。「そうせい公」や周布政之助とは、全く違った態度をとってはいないか。思わず赤面せきめんしてしまいました。

大河ドラマと関わることで、多忙たぼうの中にも、様々なことを教えられている毎日です。どうぞ皆さま、『花燃ゆ』よろしくお願いいたします。長門市の企画展にも、ぜひおいで下さい。 ■

# 『楫取素彦と妻・寿展』

二〇一五年一月三十日より  
長門市三隅 清風記念館にて



※どちらにも、住職・前住職が実行委員として関わっています。



## 「楫取夫妻と長門市」パネル巡回展

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| 長門市中央公民館     | 2014年12月15日から26日まで  |
| ルネッサながと      | 2014年12月26日から1月5日まで |
| 日置農村環境改善センター | 2015年1月5日～1月20日まで   |
| ラポール油谷       | 2015年1月20日～2月3日まで   |

『旅行読売』

2015年1月号



極楽寺の寿さんの書が、  
雑誌に紹介されました！



『これ一冊で新年歴史ドラマの  
予習は完璧！  
吉田松陰の妹・文  
その生涯と真実』  
(メディアアクセス)



『花燃ゆ』の小説版第1巻が、発売されました。やはり主役だけに、文さんは魅力的に描かれています。

さて、気になるのは寿さんですが、やはり憎まれ役として登場しています。実は種明かしをすると、ドラマのプロデューサー土屋さんが「寿さんは、最初は嫌な役で出てきますよ」と言われていたのです。「最初は・・・」ということは、いずれ違うことになるということ。これからが楽しみです。■

大河ドラマ『花燃ゆ』  
小説版 第1巻  
好評発売中

第2巻は3月、第3巻は夏、最終巻は秋に発売予定です。

# 第33回三隅親鸞聖人聖跡巡拝団



日程・行き先  
決定!

2015(平成27)年

4月14日(火)~16日(木)



## 東京築地本願寺参拝 親鸞聖人関東御旧跡巡りと ドラマ「花燃ゆ」ゆかり群馬の旅

二年に一度行われる、三隅親鸞聖人鑽仰会の聖跡巡拝団。今回は、関東の御旧跡を巡り、大河ドラマ『花燃ゆ』ゆかりの群馬・前橋へ旅します。お寺の旅行は、「お互いさま」と迷惑をかけあい、「ありがとう」と感謝しあう思いやりの旅行です。「みんなに迷惑かけるのでは・・・」と尻ごみされずに、どうぞご参加ください。詳しいことは、後日チラシでお知らせします。お問い合わせは、お寺まで。

※ 今回は、本廟納骨と帰敬式はありません。

## 五木寛之『親鸞』三部作 完結!

『親鸞』、『親鸞～激動篇』、そして今回発刊されました『親鸞～完結篇』で、五木寛之さんの『親鸞』三部作が完結しました!各地方新聞に連載され(山口県は山口新聞)反響をよんだこの作品は、親鸞聖人の苦悩を深く描ききった作品です。私は、小説の中で聖人が問いを見つけ、受け止めるたびに、「私ならどうこたえるだろうか」と考えながら読みました。今では、大切な本の一つです。興味のある方は、お寺で貸し出しますので、お申し出下さい。



山口新聞のコラム『東流西流』三月・四

月の木曜日担当に、住職がご指名をいただき  
きました。

今月は、第六〜七回分を転載します。 ■

(山口新聞

2014 (平成26) 年4月10日掲載)

## 東流西流

クイズを一つ。「既に造った罪」と「これから造る罪」はどちらが怖いでしょう。仏教では「これから造る罪」といいま

と教えられるのです。

### いかなるふるまいをもすべし

以前佐世保市で、12歳の少年が4歳の少年を殺してしまふ悲しい事件がありました。当時うちの子は3歳と5歳で、本当に身震いしたことでした。その際ある大臣が「加害者の親は市中引き回しの上、打ち首にすればいい」と発言されました。被害者の親御さんがそんな思いを持つことはわからないではあります。しかし私たちは被害者の親になる可能性もあれば、加害者の親になる可能性もある

## 東流西流

いつからか自己責任という言葉が頻繁に使われるようになりました。責任を持つことは大切ですが、過剰な責任追及の結果誰も責任をとりたがらない世になりました。余計な事をすれば叩かれ、失敗すれば叩かれる。つクレームが来るかと怯え、萎縮する場面をよく見かけます。一昔前はお互い様と責任を取り合う大人の態度がありました

### ともに凡夫

が、今や責任は押し付け合うものになりました。これではのびやかで風通りの良い世の中は生まれずともありません。責任を押しつけられた者だけが集る、まさにイジメの構図がマスコミや政治手法にまで取り入れられています。学校のイジメが無くならないはずです。封筒にはのりしるがりますが、余分にはみ出すからこそ封がで

き辛い世の中になること  
でしょう。  
日本のお釈迦様と敬わ  
れる聖徳太子は「私がい  
つも正しいわけではな  
く、彼が間違つてはかり  
でもない。共に凡夫でし  
かないのだ」と言われま  
す。卑屈や自虐はなく、  
人間の事実に立った謙虚  
さがあります。この態度  
が大らかさを生み、はみ  
だしを赦し責任を分か合  
う、心豊かな生き方を育  
んだのではないでしょ  
うか。どうやら人間の事  
実に立ち返る必要があり  
そうです。

(長門市、住職・三隅  
中PTA会長)

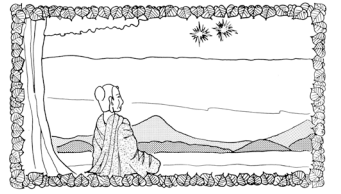


池信 秀見

(山口新聞

2014 (平成26) 年4月17日掲載)





## 極楽寺揭示伝道 けいじでんどう



## 12月の言葉

人間である限り、競争はつきものです。勝つ者もいれば、負ける者もいます。しかし、多くはいずれ敗者となり、勝ち続けられる者は一握り。その勝ち続けた者もやがて死という現実が突きつけられ、それまで得たものを全て失うのです。人生を勝ち負けだけで量ろうとすれば、人は皆敗者になってしまいます。

かつて、ある小学校の運動会で勝ち負けを無くそうと、全員手をつないで走らせ「みんな一等賞！」にしたことが、話題となりました。近頃はそんな話を聞きませんから、評判も悪く、すぐに取りやめになったのでしよう。

人間である限り、競争から抜け出すことはできません。何より、勝つことで得ることもありますし、負けることで失うこともあるでしょう。しかし逆に、勝つことで見失うこともありますし、負けることで気づかされることもあるのです。実は、勝ち負けがすべてではなく、そこから何を学ぶのか、何に気づかされ、深められ、どんな世界が広がっていくのか。それが人生を豊かにし、尊くもしてくるのではないのでしょうか。

仏教では、「人生は苦である」と言います。それは、「不如意」思い通りにならないからです。生きていくとは、思い通りにならないこと

との連続です。しかし実は、思い通りにしたという私の「思い」こそが、「苦」の原因であり、その「思い」をゆるめたり、ずらしたりする中で、世界の見え方は大きく変わるのだと教えられます。

人生では、「老いる」ことも、「病む」ことも、「死ぬ」ことも、思い通りになりません。しかし、何より思い通りにならないことは、「生まれる」ことではないのでしょうか。「あんな環境に生まれたかった」「あんな才能が欲しかった」「こんなことなら、生まれてこなければ良かった」それぞれに、いろんな思いを抱えておられることでしょう。しかし厳しいことではありませんが、私の人生は「誰にも代わってはもらえない」のです。ならば、この人生を「誰にも代わってもらわなくてもいい、かけがえのない人生」にしていかなければならないのが、私たちの務めだと言えるでしょう。



お釈迦様は、カーストという差別構造が強く根付いた時代の中で、こう言われています。

生まれによってバラモンなのではない

生まれによって非バラモンなのではない

行為によってバラモンなのである

行為によって非バラモンなのである

『スツパニパータ』

自分の人生を決めるのは、自分の生き方である。尊くも、卑しくもするのは、私自身の行いなのだ。それは、誰に勝ったとか、負けたとか、そんなことではないのでしよう。できたか、できなかったか。そんなことでもないのでしょう。

どう生きようとしたのかという、生きる態度が問われるのだと教えられるのです。勝ち負けだけで、決まるわけではありません。人生は、そんな卑しいものではないのです。■



## 1月の言葉

自分で自分の尊さを奪うことではないでしょうか。思い通りにならなくても、私の人生は尊いもの。ならば、この人生を「誰にも代わってもらわなくてもいい、かけがえのない人生」といただかねばならないでしょう。

以前、病院でお話をする機会をいただいた際、ある女性から「私の人生は誰にも代わってもらえないけれども、誰にも代わってもらわなくてもいい、かけがえのない人生にしたい」といって、本当にいい言葉ですね。私は、病気で入院を繰り返してありますが、私の人生を大切に生きていきたいと思います。」という言葉をいただきました。病気である身を受け容れ、あきらめることで、かえって前向きに生きておられる方でした。ところが、寂しそうにつぶやかれるのです。「母が泣くのです。こんな身体に生んでしまったと、泣くのです。それが私にとって一番つらいのです。」と。娘を思う

『大無量寿経』に「身自当之 無有代者（私の人生は、誰にも代わってもらうことはできない）」という言葉があります。厳しい言葉です。どんなに思い通りにならなくても、不満の中にあっても、私の人生には代理人はいない。それは『あきらめ』なくてはならないのだと。それは、「いじめられても我慢しろ」「差別されても耐えろ」ということではありません。いじめ・差別は、尊さを奪うものであり、恥ずかしく悲しい行為です。決して受け容れてはなりません。しかしもっと悲しいことは、思い通りにならないからと自分の人生をあきらめ、貶めていくこと、

親心が、かえって娘を苦しめている。切ない話ではありませんか。「思い通りにならない」と悲しむことが、あきらめきれないことが、かえって娘の人生を貶めているのですから。

実は、仏教でいう『あきらめ』とは、明らかに見る、ありのままに見る（諦観・正見）ことを言うのです。つまり、何を受け容れねばならないのか、何を受け容れてはならないのかを知ることです。それが仏さまの智慧なのです。私たちの先輩方は、阿弥陀さまのみ教えを通して、自分の人生を本当に尊いものとしていただく智慧を学び、歩まれたのです。

確かに受け容れるということは、しんどいことでしょうか。しかし、そこにしか私の人生はありませんし、そこからしか始まらないことも事実なのだと思えるのです。

フランスの思想家レヴィ・ストロースが、「ブリコラージュ」ということを言われています。

す。それは、有り合わせの道具や材料を使つてものを作ることを言います。例えば、冷蔵庫にある有り合わせで美味しい料理を作る。持ち合わせの道具や材料で小屋を作り、椅子を作る。

「ちゃんとした材料や道具がなければ、仕事を始めることができない」というのではなく、そのつど「持ち合わせ」の道具や材料でなんとかすることを言うのだそうです。私たちの人生は、まさしく「ブリコラージュ」するしかないのでしょうか。「どうして、こんな環境に生まれたのか」「どうして、私にはあの才能がないのか」と嘆いても、私の人生は誰にも代つてはもらえない。ならば、「持ち合わせ」のもので何とかするしかありません。

それは、自分がないものを嘆くよりも、「自分には何かがあるのか」を点検する作業です。過去を振り返り、周りを見渡す。なければ、別のものを転用する。「これがなければ、何もできない」と嘆いても何も始まらない。あるもの

で何とかしなければならぬ。

それは、今まで価値や意味のないものだと思つていたことに、新たな価値や意味が生まれてくるということでもあります。過去が見直され、世界の見方が変わる。今までとは、違う形での出遇いが広がるのです。周りの人とも、亡き人とも。そして、仏さまとも。

私たちの先輩方は、自分が求めていたものとは全く違うものを、仏法を通していただきました。そこには、自分が気づくよりも先に、私を思い、願つていて下さる阿弥陀如来の世界がありました。その世界からいただく智慧によって、受け容れなくてはならないものに気づき、受け容れてはならないものに立ち向かわれたのです。そこに、人生の新たな意味が生まれてきたのでしょうか。その歩みの歴史が私のところにまで至り届き、私の歩みを励まして下さるのです。■

# 除夜の鐘つきのご案内

つきはじめ  
11時50分

毎年、極楽寺では、おでんを用意して、大晦日に除夜の鐘つきを  
致します。熱々のおでんをほおばりながら、新しい年が明けるのを  
共に味わいましょう。懐かしい人と再会できるかもしれませんよ。  
つき始め十一時五十分より。終了後、初参拝のお勤めをします。



## 元旦会 1月1日 朝10時から



時間は約三十分。家族全員でお参りされる家もあります。ぜひ、お参り  
下さい。わが家のお仏壇も打敷をかけて飾り、新年を迎えましょう。

※ 参拝者には、記念品を用意しております。

## 二〇一五年極楽寺のご法座

- ◆ 一月一日 朝十時 (毎年) 元旦会
- ◆ 一月十四日～十六日 (毎年) 御正忌報恩講
- ◆ 四月二十二日～二十三日 春の永代経法要  
講師 広島 正覚寺住職 清胤弘英師
- ◆ 五月二十一日 (毎年) 清光仏教婦人会の降誕会
- ◆ 六月二十四日～二十五日 夏法座  
講師 美祢 明厳寺住職 中島昭念師
- ◆ 八月十四日～十六日 (毎年) 盆法会
- ◆ 九月二十三日 (毎年) 納骨堂追悼法要
- ◆ 十一月十一日～十二日 秋の永代経法要  
講師 福岡 西教寺住職 森 哲人師
- ◆ 十二月十八日 (毎年) 清光仏教婦人会の報恩講
- ◆ 十二月三十一日 (毎年) 除夜の鐘つき 初礼拝

ご法座には、門徒式章をつけてお参りしましょう



リトップ収集  
ありがとうございます

山口別院で換金され、県内福祉施設へ寄付されます。

今年は、26kg (空き缶約 87,000 個分)

## たすけあい募金

本堂に設置した募金箱へのご懇志です。

合計 13,794円

ありがとうございました。

□ 今年の流行語大賞に一言。【カープ女子】ファン歴 38 年の私からすれば、耐えることを覚えてこそ、真のカープファン。来年に期待すると裏切られます。気をつけて。【ありのまま】私はありのままよりも、成長し成熟したいと思います。【集団的自衛権】よくわからない権利です。意味がわかるのは、事が起こってから？それはチト怖い。【ダメよ～ダメダメ】欲望に流されることを、自由とはいいいません。「ダメダメ」とブレーキをかけないと、自分を見失いそうです。[就職]